

緑の回廊づくり

みどりのまちづくりグループ

I はじめに

平成13年春日井市が環境都市宣言を行いました。そして翌14年3月に春日井市環境基本計画が策定されました。それに基づき環境まちづくりを行政、企業、市民のパートナーシップにて行なうよう市民企業に呼び掛けが行われ、その内自然環境保全を目指すメンバー10名が集まり、みどりのまちづくりグループを結成しました。現代は都市化により分断され孤立化した自然を、人と自然が共生出来る豊かな自然環境を取り戻す事が急務と言われています。その為には水循環系の再生、保全こそが最も重要であると思いから、「春日井市東部丘陵地（県有林通称みろくの森）から、その地を水源とする大谷川、内津川を経て庄内川の松川橋（道風ゆかりの里）まで川沿いに人と自然が共生出来る生態系豊かなみどりの回廊づくりをみどりのまちづくりグループの活動目的としました。河川の自然は河川内に止まらず周辺の緑と一体になった場合、生き物の生息空間が広がりより多様化します。

それらの自然と共生するために、活動のフィールドを「みどりの里の駅」と名付け、そのフィールドの持っている自然を「森の恵み」「自然の恵み」として利活用する事も提案しつつ設立以来15年活動を続け、みろくの森から庄内川まで活動が広がり、現在20フィールドで23プロジェクトの活動を展開しています。

II 活動の内容（みどりのまちづくりグループ水源・水環境フィールドMAP）

1. 庄内川水系大谷川源流水資源の森活動

森林は山地災害の防止、自然環境の保全、地球温暖化の防止など多面的な機能を有していますが、このような機能が十分発揮されるためには、森林を適切に管理・整備することが必要です。県有林の機能向上を図り、県民の森林・林業に対する理解を深める為、「県有林野における活動に関する協定」を結びボランティア

が活動する制度が平成16年度に出来ました。みどりのまちづくりグループはその協定第1号となり平成31年現在8.5haの森林整備を続けています。

①みろくの森ドングリ植樹と育樹活動

みどりのまちづくりグループを設立して初めての活動、資金もなくメンバーでみろくの森でドングリを拾い苗木を育てたもので、平成12年9月の東海豪雨崩落地に平成15年から18年まで4年間で1,000本を子供達と植樹、以来15年間現在まで年2回の下刈等育樹を行っています。この活動は、崩壊した山を復旧すると共に、植林した落葉広葉樹（コナラ、アベマキ）の落ち葉が腐葉土になり保水力豊で、生物多様化した空間をつくることです。近年どんぐりを見かけるようになりました。また、ヤママユも見つけました。子供たちになじみのどんぐりの植樹を通して緑の大切さを体験して貰うことです。苗木は立派に成長したので今年は間伐しシイタケ菌打ち体験のホダ木使用を考えています。



崩壊地

どんぐり植樹祭

緑が甦った崩壊地

②みろくの森人工林間伐、除伐、枝打ち

みろくの森の人工林（スギ、ヒノキ）の下刈、枝打ちを行っています。平成21年からは、愛知県農林水産事務所林務課の協力で、「間伐・枝打ち体験」、「除伐体験」として、一般公募の参加者で行なっています。除伐体験は4年前から、間伐材・枝打ち体験は6年前から実施。みろくの森は愛知県の県有林で、尾張地域の山林で数少ない環境保全保安林です。今、森林浴を健康増進やストレス解消などに役立てる「森林浴セラピー」の研究が注目されている中、癒しの森づくりをめざした活動です。除伐、間伐した材は「間伐材は森の恵み」として、市

内外で「間伐材利活用まつり」を実施クラフトづくり体験を実施、テーブル、ベンチをつくりみろくの森、市内公園等に設置して利活用をおこなっています。



③みろくの森林道美化活動

みろくの森林道延べ3kmの草刈り、ゴミ拾いを年間2回行っています。



④森林体験事業

みどりの大切さを知って貰う為に、一般市民を公募し、間伐体験、除伐体験、シイタケ菌うち体験を年間2～3回



⑤みどりの森づくり植樹と育樹活動

愛知県の自然公園に指定されていないながら昭和の時代に産業廃棄物が投棄された地で荒廃のまま放置された約1haを自力で草刈り、竹、檜の間伐材を利用して通路、階段、柵を作り、平成24年3月丘斜面500㎡に第1回みどりの森づくり植樹祭として、コバノミツバツツジ220本を一般募集の市民親子、企業、団体、新たにみどりの森づくりボランティアとして参加した人達、メンバー総勢100名で行いました。平成25年3月第2回植樹祭として、第1回植樹祭植栽地斜面上方にニシキギ50本、ツリバナ50本、マユミ50本、ヤマブキ50本、クロモジ50本合計250本と、みどりのまちづくりグループ

創立10周年、植樹累計3,000本記念として、ヤマザクラ10本を一般募集の市民親子、企業、団体、の人達、メンバー総勢110名で行いました。平成26年2月第3回植樹祭ではヤマザクラ60本、ヤマモミジ60本参加者の記念樹を植えてもらいました。愛・地球博のキャラクターモリゾー・キッコロの使用許可を得たこともあり大盛況、150名が参加、特にCSRで企業の参加が多くなりました。育樹では下草の防除に、近くの企業から提供の廃麻袋を5,000枚ひきつめました。第4回みどりの森植樹祭、平成27年2月21日一般応募の市民の他 三菱UFJ環境財団、中部地域づくり協会の企業、団体の協力を得て総勢100名で、ヤマザクラ5本、ヤマモミジ5本、ヤマボウシ50本、ミツバツツジ30本、ヤマブキ10本を植栽、年間10回の育樹活動を実施。



荒廃地整備



植樹祭



植栽地

2. 庄内川水系大谷川水辺の水循環活動

①大谷川源流左岸植樹と育樹

ここは春日井市が内津川緑道の起点にもかかわらず草やクズのツルが生い茂り、市道を通る車から不法投棄、ポイ捨てのゴミ捨て場となっていたところ。平成19年3、11月大谷川源流左岸1,500㎡に大谷川第1

回、2回植樹祭として、地元の学校、近隣の子供達とみろくの森の植生である、ヤマボウシ、ヤマザクラ、ウツギ、シデコブシ等13種の野生種、1,000本を植樹しました。以来毎年2～3回の下刈り等育樹活動を行っています。現在ポイ捨ては殆どなくなりました。



公募市民と植樹祭



素晴らしい景観の大谷



②大谷川源流右岸癒やしの花壇づくり

みろくの森を源とする大谷川その右岸600㎡に季節の草花を時には幼児達と協働で植栽、女性メンバー中心の花壇活動です。

①と②の活動は、小川が流れ、メダカが泳ぎ、トンボやチョウが舞い、小鳥がさえずり夜にはホタルが幻想的な光を放って私達の心を癒してくれる自然がいつばいの人里の原風景を目指しています。



幼児と協働の植栽



四季折々の花が咲く

③大谷川左岸庄名町モミジ並木植樹と育樹

みどりのまちづくりグループは平成23年親水公園づくりとして河川敷に侵入した竹を伐採、堤に平成23年160mに亘りヤマモミジ32本植樹。参加者は春日井市内で自然環境の改善に日頃努力している企業、学校、団体等9団体80名でした。年2回の下刈りの育樹活動



④大谷川左岸庄名町河川敷美化活動

平成20年より県と協定を結び2,300㎡の草刈り、清掃(年6回)



親水公園

⑤同上にて自然体験ガサガサ

森の幼稚園親子体験



⑥大谷川右岸隣接廻間町休耕田稲作

大谷川右岸隣接廻間町休耕田2反余の無農薬有機栽培稲作活動、内1反は森の幼稚園親子体験とし、どろんこ遊び、田植え、かかしづくり、稲刈りを行っています。



⑦大谷川クリーン作戦

大谷川最上流から内津川の合流点まで4kmのゴミ拾い(年1回)



3. 庄内川水系内津川源流水資源の森活動

①絶滅危惧種シデコブシ再生保全

シデコブシは伊勢湾周辺の丘陵地帯にある湿地にし

か生えない東海地方固有の植物です。現在三重県、愛知県、岐阜県の三県のみに自生しています。環境省レッドリスト2017には準絶滅危惧種としてしていされている。早春に可憐な花を咲かせることから、昔の里山の代表的な植物でした。日本の里山（世界的に里山が通じるようになった）はかつて国土の約4割をしめていましたが経済成長に伴う開発か、里山の放置により荒れ果てそこに生息していた動植物は絶滅の危機に瀕しています。シデコブシもギフチョウも絶滅危惧種に名を連ねています。春日井市のシデコブシもかつては至る所にあり、小学校の校歌にもなって現在も子供達に歌い継がれています。しかし、土地の改変による自生地喪失と、主な自生地となっている里山林の未使用による遷移進行と自生地に侵入した多樹種に被圧され衰退している。みどりのまちづくりグループは春日井市の西尾町の湿地5,600㎡に絶滅寸前で群生するシデコブシを再生、保全する為に中部大学応用生物学科南教授教授と協働研究の形で愛知県県有林事務所の許可を戴き平成19年4月より現地調査を開始平成20年3月より本格的保全活動を開始した。以来10年見事に180本以上再生、実生も100本余確認出来る用になったので、2018年「陸の水」（日本陸水学会東海支部会支部会が発行する機関誌）に「シデコブシ林における他樹種除伐及び皆伐が初期萌芽再生・土壌間隙水の化学特性に及ぼす影響について」（中部大学 南基泰、愛知真木子教授、みどりのまちづくりグループ 高橋勇夫）論文を発表しました。



② 頓明どんぐり植樹と育樹

東海豪雨で1,000㎡崩壊した地に一般公募の市民平成19、20、21年の3年間に延べ350名で430本のどんぐり（クヌギ）の植樹を行いました。クヌギは中部地方には自生が無く、良く似たアベマキが自生して原因は明確には不明で、植栽すると育ちます。森林公園のクヌギのどんぐりを戴き苗木をつくり植樹し、現在育樹中で順調に成長しています。

③ 頓明公園アオダモ植樹と育樹

アオダモとはトネリコとも言われモクセイ科の温帯落葉広葉樹です。我が国ではプロ野球や大学野球など



で、木製バットに使用されていますが植林されていなかった為に資源の減少で、長期的に供給することが難しくなっています。平成18年12月、19年1月、第1回、2回アオダモ植樹祭として、春日井市で全国的野球球団の社会人、大学、高校、少年野チームの選手365名で61本のアオダモの苗木の植樹を行い、育樹を行っています。



④ 頓明公園美化活動

春日井市の公園3,000㎡を受託、美化活動（年4回）



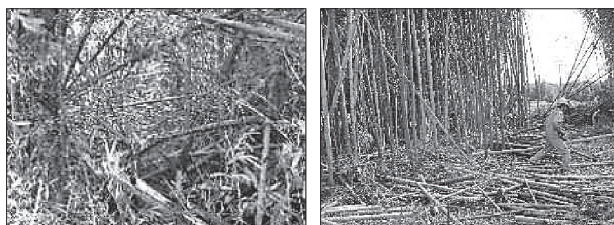
4. 庄内川水系内津川水辺の水環境活動

① 神屋町、大泉寺町地内竹林整備

竹林の整備が問題になっています。

平成25年9月より春日井市潮見坂平和公園内にある竹林5,000㎡を事務所長の許可を得て整備することに成りました。

間伐採した竹は、竹炭焼き、活動フィールドの竹柵、間伐材活用イベントのクラフトづくりに利用しています。



② 春日井市立西尾小学校学校林整備と自然体験授業

学校林を利用しシイタケの栽培、どんぐりの育苗、植樹、除伐雑木を利用した工作の「木使い」体験を通して森林の大切さ、自然の大切さを全校生徒に体験してもらいます。この学校の取り組みが評価され、平成30年第69回全国植樹祭で同校は農林水産大臣賞受賞、みどりのまちづくりグループは第70回全国植樹祭でノースロップ賞の受賞が決定しています。

③ 春日井市立坂下小学校学校林整備と自然体験授業



④ 内津川右岸上野町堤美化活動

愛知県建設部が「自分たちの近くの河川を自分たちの団体できれいにしたい」という住民の要望により、愛知県管理河川の草刈り作業の地域住民団体等への委

託事業（通称／愛知コミュニティリバー推進事業）を受託し5,600㎡の草刈り、清掃の美化活動（年4回）



5. 庄内川中流域（上条河畔林）水辺の水環境活動

庄内川は、その源を岐阜県恵那郡の夕立山（標高727m）に発し、岐阜県東濃地方の盆地を貫流し、濃尾平野を南下して伊勢湾に注ぐ一級河川であり中部地方を代表する都市河川です。流域は愛知県、岐阜県の2県にまたがり中部圏の中核都市名古屋をはじめ、近年都市化が著しい春日井市、尾張旭市や陶都の瀬戸市、多治見市、土岐市などの諸都市を擁し中部圏の経済、文化の基盤をなしています。その庄内川中流域（17km～28km）に自然の自生のヤナギの河畔林があります。この自然の河畔林を利用、「良い子はここで遊ば無い」ではなく「良い子はここで遊ぼう」をコンセプトに子供達が「自然がいっぱいの水辺の体験」が出来る親水空間づくりに庄内川国交省庄内川河川事務所所長を巻き込んで平成18年4月開始。ありのままの自然を伝えることをテーマに最小限の手入で整備した親水空間、でも平成18年当時は、川沿いに背丈をはるかに越える草を刈り、オートバイや、自転車、タイヤ、テレビ、冷蔵庫等の粗大ゴミ、発砲スチロールやペットボトルなどのプラスチック製品のゴミの山と戦い行い、散策路をつくり、ゴムボート乗場や砂場をつくりました。そして素晴らしい景観の水辺の広場を作りました。これを「水辺のみどりの楽園」と名付け、自然調査や水辺の体験事業を行っています。しかしこの「水辺のみどりの楽園」も大雨が降れば一変「ゴミの楽園？」と化します。でも安全に作り替えられた自然よりも危険も隣り合わせにある本来の姿に触れることがより自然への理解につながるのではないかとの思いが「壊れやすい」河畔林づくりにつなっています。

①庄内川美化活動（庄内川アダプト）

庄内川アダプトは「より良い庄内川を実現するために行う様々な活動（例：清掃活動、花木等の植生管理、水生生物調査、自然観察会、河川愛護活動 など）で、現在ボランティアグループ、ボーイ（ガール）スカウト、女性団体、学校、同好会などのほか、企業、商工団体、農業団体、消費者団体等40団体が加盟、国土交通省庄内川河川事務所がサポートしている活動に参加年間右岸（27～28km）河畔林の美化活動（年4回）



②自然体験（庄内川アダプト）

毎年夏休みに子供達を一般募集（100名）し「庄内川 水辺の自然をいっぱい体験しよう」を実毎年大盛況です。内容はiガサガサ、iiEポート、iii竹炭焼き、iv水濾過実験、v温度調べ、vi流速調べ、等です。



③川の自然調査

（iアユ遡上調べ、ii植生調べ、iii野鳥調べ、iv樹木調べ）



6. 伊勢湾流域再生ネットワーク活動

この活動は、伊勢湾流域圏の環境保全、再生をめざして、森、川、海の連携により「きれいな水環境づくり」「次世代につながる環境づくり」「健全な地域づくり」を行うことを目的とする団体、グループの活動の情報発信・交換、交流を支援するための組織で「一般社団法人 中部地域づくり協会」に事務局を置き、52団体が加入、みどりのまちづくりグループは2010年設立以来下記活動に参加しています。

①「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」

平成23年から毎年大谷川、内津川、庄内川水質調査を行い「水質テスト・ゴミ・水性生物調査結果」（伊勢湾再生推進会議）に報告発表しています。



②活動発表

平成25、28年伊勢湾流域再生フォーラムで活動報告



③「環境デーナゴヤ」ws

「環境デーなごや」は、市民・事業者・行政の協働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を実践する契機とする行事として平成22年からはじまりました。生き物との共生・低炭素社会の実現・循環型社会の構築などをテーマに、それぞれの地域で清掃活動や環境学習、講演会などを実施する「地域行事」。成果を持ち寄り発表、交流、学びあう「中央行事」を開催。楽しみながら環境について考える事を目的に毎年名古屋市久屋大通りで行われます。みどりのまちづくりグループは平成23年から毎年「間伐材は森の恵み」ワークショップを出展、多くの市民に間伐材の「木ずかい」を体験して貰っています。



7. 愛知用水水辺の環境活動

①藤山台緑地美化活動

春日井市から管理を受託2,000㎡緑地の清掃、草刈り(年4回)



8. 間伐材利活用WSと緑の募金活動

森林整備や竹林の整備などの活動を行うと、それとともない伐採木や竹が伐採されて出てきますが、基本的にはそのほとんどが伐り捨てられるのが現状です、これを何とか有効利用使用と「間伐材は森の恵み」を合い言葉に市の公園やみろくの森にベンチを設置する一方間伐材で子供達にクラフトづくり体験を行っています。この体験で「木ずかい」による自然の大切さを

知って貰うことが出来ればと思っています。現在行っている「間伐材は森の恵み」WSは6, ③の「環境デーなごや」の他「みどりのフェスティバル春、秋」(愛知県緑化センター)、緑と花のフェスティバル春、秋(春日井市都市緑化植物園) ささえ愛センターまつり(春日井市市民活動支援センター)の4箇所まで延べ11日1,000人以上の親子が体験に参加します。参加費は年間¥250,000～300,000になりますが全て「緑の募金」寄付します。

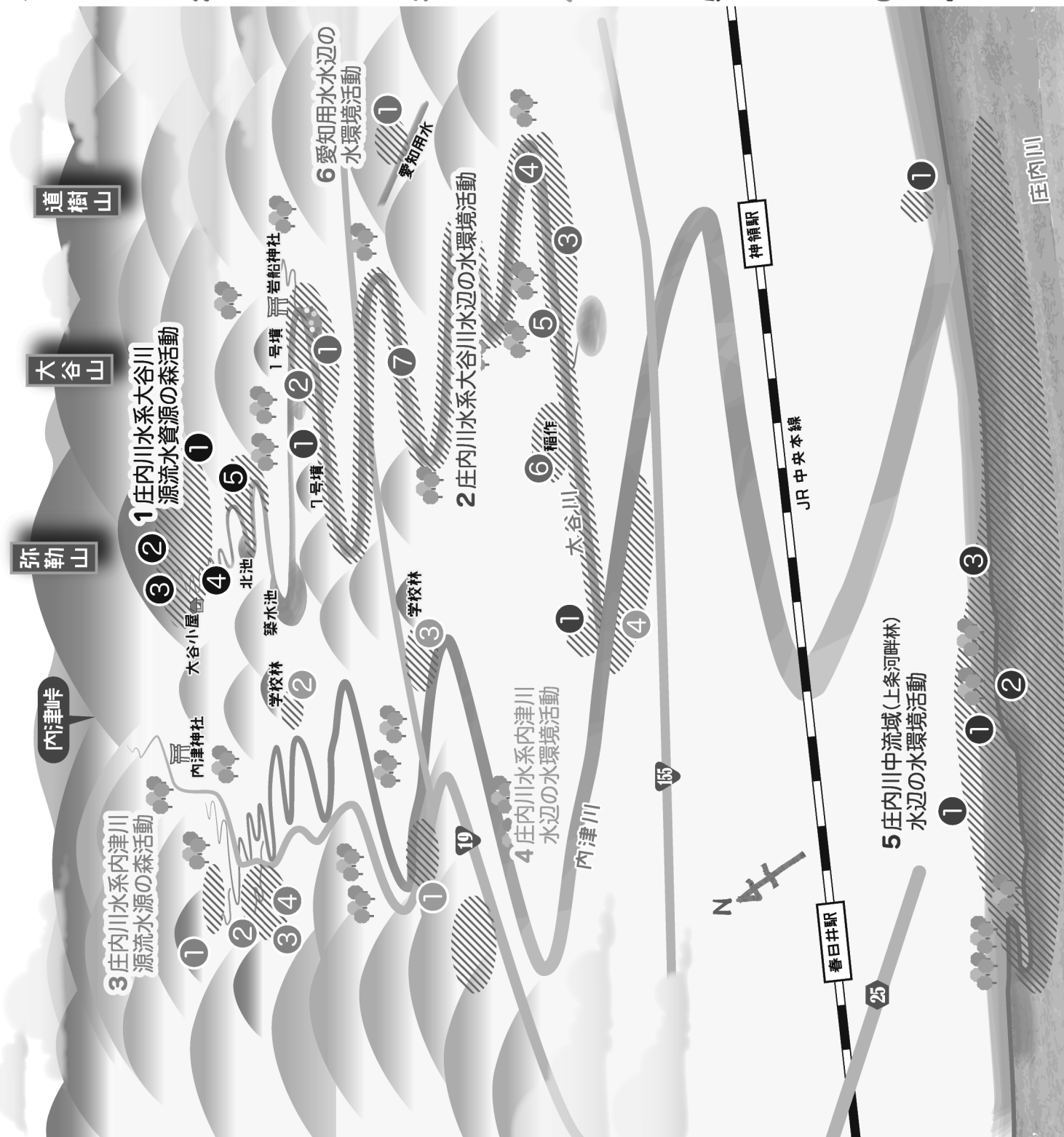


Ⅲ 今後の展開

我々活動は年間3,000人を超えるようになりましたが自然環境を守ることが現代ほど重要視されなければならない時はありません。山は保水力が失われるほど荒廃し、川は自然の浄化力を越えて汚水が流れ、河川敷は巨大なゴミ箱と化して水循環が悪化、水環境を守るモラルまでが失われています。

我々の生活に山や川の働きが如何に必要であるか、その大切さ、素晴らしさを知って貰う為「良い子はここで遊ぼう」となるような自然環境づくりを次世代に引き継いでゆかねばなりません。今後我々は年間5,000人、10,000人とより多くの人を巻き込む活動にしたいと思います。

みどりのまちづくりグループ



- 1 庄内川水系大谷川源流水資源の森活動(写真1)
- ①みろくの森どんぐり植樹と育樹
 - ②みろくの森人工林間伐、除伐、枝打ち、下刈り
 - ③みろくの森林道美化活動
 - ④自然体験事業(除伐、間伐、キノコ菌うち)
 - ⑤みどりの森づくり植樹と育樹

- 2 庄内川水系大谷川水辺の水環境活動(写真2)
- ①大谷川源流左岸植樹と育樹
 - ②大谷川源流右岸癒やしの花壇づくり
 - ③大谷川左岸庄名町モミジ並木植樹と育樹
 - ④大谷川左岸庄名町河川敷美化活動
 - ⑤自然体験事業(ガサガサ)
 - ⑥大谷川右岸隣接廻間町休耕田稲作、体験事業
 - ⑦大谷川クリーン作戦

- 3 庄内川水系内津川源流水資源の森活動(写真3)
- ①シデコブシ再生、保全
 - ②頃明どんぐり植樹と育樹
 - ③頃明公園アオダモ植樹と育樹
 - ④頃明公園美化活動

- 4 庄内川水系内津川水辺の水環境活動(写真4)
- ①神屋町、大泉寺町地内竹林整備
 - ②春日井市立西尾小学校学校林整備と自然体験授業
 - ③春日井市立坂下小学校学校林整備と自然体験授業
 - ④内津川右岸上野町土手美化活動

- 5 庄内川中流域(上条河畔林)水辺の水環境活動(写真5)
- ①庄内川美化活動(庄内川アダプト)
 - ②自然体験
(ガサガサ、Eポート、竹炭焼き、水濾過実験、流速調べ)
 - ③自然調査
(アコ聴上調べ、植生調べ、野鳥調べ、樹木調べ、v 温度調べ)

- 6 愛知用水水辺の水環境活動(写真6)
- ①藤山台緑地美化活動

- 7 伊勢湾流域再生ネットワーク活動(写真7)
- ①勢湾流域圏一斉モニタリング、大谷川、内津川、庄内川水質調査
 - ②平成25、28年伊勢湾流域再生フォーラムで活動報告
 - ③平成24年から「環境デーナゴヤ」にて毎年「間伐材は森の恵み」ワークショップ